

【与那原町】

校務 DX 計画

「GIGA スクール構想の下での校務の DX 化チェックリスト」34 項目において、本町の主な課題として、教職員に求める提出資料が紙であることが多いこと、保護者への連絡手段の効率化、いまだに FAX での連絡があること、一部に押印・署名によって確認をする慣習や書類が依然として残っていること、教育データをアクセス権限によって管理する慣習が無いことがあげられる。

これらの課題を解決するために、以下の 4 つの解決策に取り組む。

1. 教職員が提出する書類を、クラウドツールを活用しペーパーレス化、デジタル化すること

本町では町立学校全教職員に個人メールアドレスが付与されており、情報共有や連絡等に Microsoft と Google 両方のクラウドツールが活用できる環境にある。現在教職員間の連絡はクラウドツール利用が一般的となっているが、職員会議資料や研修資料を慣例で印刷配布するケースや、クラウドツール利用で提出できる書類を印刷物で求めているケースが散見される。一層のクラウドツール活用を推進する。

2. 学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスにて一斉配信すること

クラウドツール等を導入して各種文書、関係機関からの通知等を一斉配信することにより、保護者はスマートフォン等各種端末で読むことができ、連絡物の紛失、渡し忘れもなくなる。印刷や配布等のコスト削減も期待できる。

3. FAX・押印をやめクラウドツールを活用するよう通知すること

FAX の過度な利用・不必要な押印はクラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害するものと考えられるので令和 6 年 8 月 9 日付け文部科学省事務連絡「学校等の FAX でのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」を徹底し、クラウドツールを活用することによって校務 DX を推進する。

4. クラウドに教育データをおき、アクセス権限によって管理する体制を整えること

次世代の校務 DX 環境構築に向け「ゼロトラストの考え方に基づき、アクセス制御を前提としたネットワークへの移行」が求められている。現在の環境においても、例えば生徒も教職員もアクセスできるデータ、教職員しかアクセスできないデータ、管理職のみアクセスできるデータ、というアクセス制限で、クラウドにデータをおき、管理することを想定し、この体制の推進を検討する。